

## 令和7年度当初予算案における主要な施策

部 局 名
県 土 整 備 部

# 新規事業及び重要事業総括表

## I 総額

### 【一般会計】

区分	令和7年度	令和6年度	伸び率
予算総額	119,920,712千円	110,962,874千円	8.1%
一般会計構成比	5.4%	5.2%	—

### 【用地事業特別会計】

区分	令和7年度	令和6年度	伸び率
予算総額	5,721,102千円	3,604,562千円	58.7%

### 【公共事業の状況】

区分	令和7年度	令和6年度	増減額	伸び率
道路	64,691,402千円	57,803,751千円	6,887,651千円	11.9%
河川	28,460,448千円	23,193,545千円	5,266,903千円	22.7%
直轄	10,105,000千円	11,178,000千円	△1,073,000千円	△9.6%
合計 (直轄除く)	103,256,850千円 93,151,850千円	92,175,296千円 80,997,296千円	11,081,554千円 12,154,554千円	12.0% 15.0%

# 新規事業及び重要事業総括表

(単位 千円)

## Ⅱ 主な新規事業及び重要施策

### 1 災害に強い県土づくり

P 5		流域治水対策の推進	【河川砂防課】	13,726,692
P 6		(中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト)	【河川砂防課】	1,440,700
P 7		ミッシングリンクの解消による道路網の多重化	【道路街路課】	4,433,100
P 8		橋りょうの計画的な点検・修繕・更新及び耐震補強	【県土整備政策課・道路街路課・道路環境課】	20,906,391
P 9		市街地の強靱化のための無電柱化スピードアップ	【道路環境課・道路街路課】	3,835,235
P 10	新規	孤立集落防止 アクセスルート強靱化事業	【道路環境課】	364,000
P 11	新規	「道の駅」トランスフォーメーション	【道路環境課】	35,000

### 2 生活の質を高める県土づくり

P 12		暮らしの安全安心を支える歩道や自転車通行空間の整備	【道路街路課・道路環境課】	3,258,600
P 13		円滑な交通と安全を確保する交差点整備の推進	【道路街路課】	695,000
P 14		安全・安心を確保するための道路の維持管理	【道路環境課】	15,314,069
P 15	一部新規	インフラ管理におけるDXの推進	【県土整備政策課・道路環境課・河川環境課】	464,751
P 16	一部新規	河川・砂防施設の管理徹底、強化	【河川環境課・河川砂防課】	18,747,630

# 新規事業及び重要事業総括表

(単位 千円)

## 3 地域の良さを活かす県土づくり

P 1 7		直轄事業と連携した骨太の道づくり	【道路街路課】	5, 3 2 7, 6 4 2
P 1 8		産業拠点を支えるインフラ整備	【道路街路課】	1, 4 4 3, 5 0 0
P 1 9		鉄道高架で踏切ゼロ!の推進	【道路街路課】	2, 7 8 3, 5 8 7
P 2 0	新 規	サイクルツーリズム推進事業	【道路環境課】	6 0, 5 0 0
P 2 1		地域に開かれたかわまちづくり	【河川環境課】	1, 1 4 1, 1 0 0

### 〈参考〉

P 2 2		埼玉版スーパー・シティプロジェクト 市町村と連携して実施する事業 【道路街路課・道路環境課・河川環境課】		1, 0 3 3, 0 0 0
-------	--	---	--	-----------------

担当 河川砂防課 荒川中流・小山川流域担当、荒川上流域・砂防担当、防災担当  
 内線 5138、5141、5137

## 目的

河道や調節池の整備、土砂災害対策などを加速化し「防災力」を強化するとともに、河川防災情報の拡充や洪水予報河川の拡大など「減災力」を高めることで、「流域治水」を推進し、レジリエントな社会の実現を目指す。

## 事業概要

### 1 河川・砂防関係施設の整備\* 13,213,510千円

#### (1) 河川施設整備の加速化 1,470,300千円

河道や調節池の整備を計画的に推進し、治水安全度の向上を図る。

#### (2) いのちとくらしを守る土砂災害対策 1,743,210千円

砂防関係施設整備を計画的に推進し、土砂災害の防止や地域の安全確保を図る。

\* 社会資本整備総合交付金や緊急自然災害防止対策事業債等を積極的に活用し、重点的に実施



### 2 流域対策の強化 383,182千円

#### (1) 雨水貯留浸透施設の整備 383,182千円

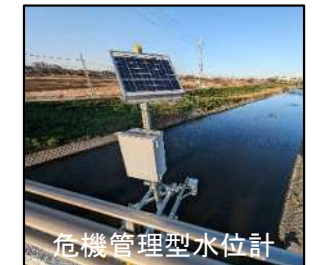
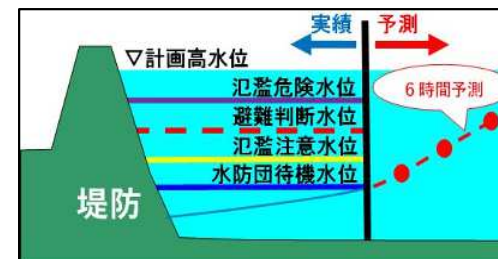
校庭や住宅敷地に降った雨を貯留又は地中に浸透させる施設を整備し、河川への流出抑制を図る。



### 3 水害に備えるためのソフト対策 130,000千円

#### (1) 洪水予報河川の拡大・河川情報の充実 130,000千円

- 洪水予報河川を拡大し、県民への円滑な情報発信と避難行動を実現する。
- 被災箇所や水防上重要な箇所に水位計、河川監視カメラを設置し、河川情報の更なる充実、発信を図る。



担当 河川砂防課 中川・綾瀬川流域担当  
計画調査・流域治水担当  
内線 5135、5162

目的

令和5年6月の大雨により、中川・綾瀬川流域を中心に約4,000件の大規模な浸水被害が発生した。このため、国、県、関係市町が連携し「中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト」を推進するとともに、特定都市河川浸水被害対策法の枠組み等を活用して流域対策をより強力に推進し、浸水被害の防止・軽減を図る。

事業概要

1 中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクトの推進 1,144,300千円

(1) 河川整備の推進 1,054,300千円

新方川における新たな調節池の整備に着手するなど、河川整備の加速化を図り早期の治水安全度の向上を目指す。

(2) 雨水貯留浸透施設の整備 90,000千円

校庭に降った雨を貯留させる施設を整備し、河川への流出抑制を図る。



2 さらなる流域対策の検討 296,400千円

(1) 河川管理施設の整備・有効活用手法検討(拡充) 257,400千円

特定都市河川流域における浸水対策強化のため、河川管理施設の整備や有効活用に向けた調査・検討を行う。

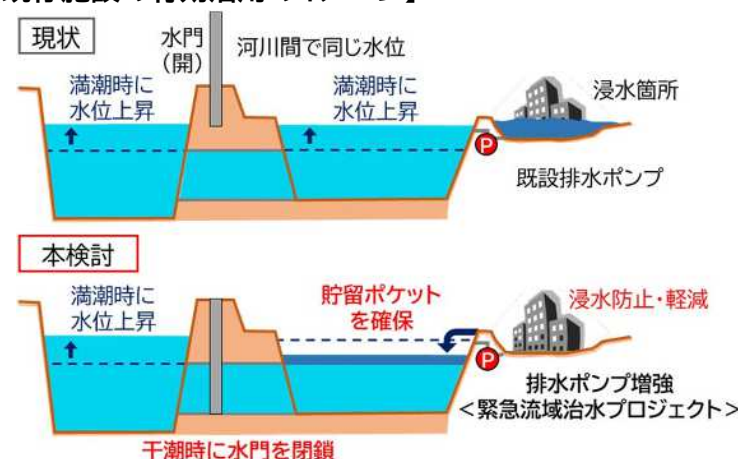
拡充内容

➢ 内水対策にも効果を発揮する既存施設の有効活用手法の検討【拡充】  
既存施設を賢く操作して河川の水位を低く維持し、浸水被害の防止・軽減を図る。

(2) 道路整備における雨水貯留浸透施設の検討 39,000千円

特定都市河川浸水被害対策法に基づく県管理道路の雨水貯留浸透施設を検討する。

【既存施設の有効活用のイメージ】



担当 道路街路課 県道担当、国道担当、街路担当  
内線 5074

### 目的

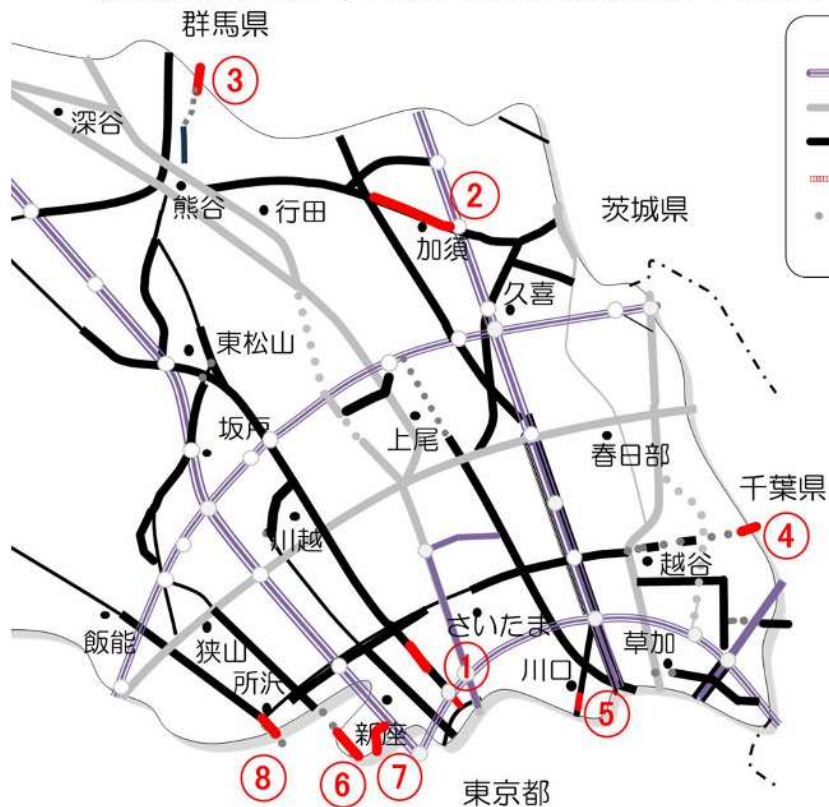
隣接都県を繋ぐ幹線道路網を多重化することにより、円滑な交通を確保し、「人や物の交流」の活性化を図るとともに、災害発生時には、代替ルートの確保により、迅速な避難や救援物資等の円滑な輸送等、「災害に強い県土」の形成を図る。

### 事業概要

#### 1 ミッシングリンクの解消による道路網の多重化 4,433,100千円

##### (1) 隣接する都県を繋ぐ幹線道路におけるミッシングリンクの解消 4,433,100千円

隣接都県と繋がる幹線道路の未接続箇所の解消や暫定2車線区間の多車線化などを8路線11箇所を実施する。



凡 例	
	高速道路
	国等管理道路
	県管理道路
	対象路線
	事業中または計画路線

No	路線	市町村	工区
①	国道254号	和光富士見バイパス 和光バイパス	朝霞市・志木市 和光市
②	国道125号	加須羽生バイパス	加須市・羽生市
③	熊谷館林線	利根川新橋	熊谷市
④	越谷野田線	野田橋	松伏町
⑤	国道122号 ((都)日光東京線)	本町ロータリー 上之橋	川口市 川口市
⑥	(都)放射7号線	栗原・新堀	新座市
⑦	(都)保谷朝霞線	野寺・道場	新座市
⑧	(都)飯能所沢線	3工区 4工区	所沢市 所沢市



現道の渋滞状況  
国道254号（新座市内）



整備状況  
国道254号（和光富士見バイパス）

担当 県土整備政策課 政策担当  
 道路街路課 橋りょう担当  
 道路環境課 防災担当  
 内線 5018、5068、5107

目的

埼玉県が管理する橋りょうの多くが高度経済成長期に建設され、老朽化に伴い多くの維持管理費を要している。道路機能の安全性と信頼性を持続的に確保するため、橋りょうの計画的な点検・修繕・更新を行うとともに、大規模地震の発生に備え、耐震補強を進める。

事業概要

1 橋りょうの計画的な点検・修繕・更新及び耐震補強 20,906,391千円

(1) 着実な点検の実施 577,000千円

- ・ 橋りょうの劣化の進行状況や補修の必要性を把握するため、5年に1回の定期点検を行う。
- ・ 648橋の定期点検を行う。

(2) 修繕及び更新の実施 9,161,391千円

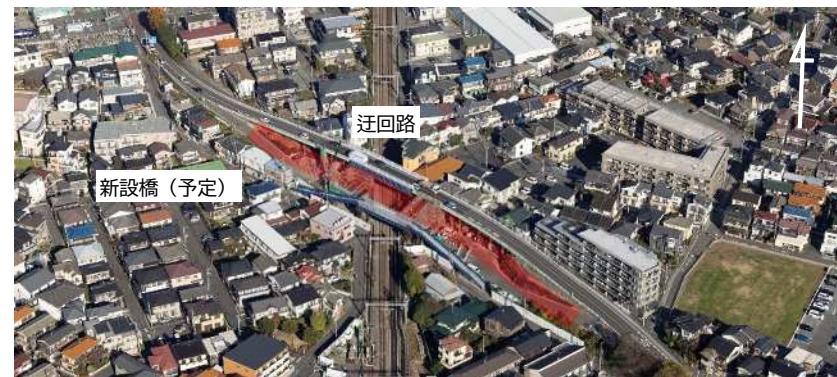
- ・ 橋りょうの安全性を確保するため、計画的な橋りょうの修繕（維持補修）や更新（架換え）を行う。
- ・ 橋りょう保全計画に基づき、以下の箇所の修繕及び更新を行う。  
 修繕（維持補修）：川越栗橋線（六万部橋）など97箇所  
 更新（架換え）：国道463号（建武橋）など27箇所

(3) 耐震補強の実施 11,168,000千円

- ・ 大規模地震の発生に備え、緊急防災・減災事業債を活用し、橋りょうの耐震補強を重点的に行う。  
 川越坂戸毛呂山線（坂戸入西大橋）など41箇所



劣化状況事例



橋りょう架換え工事  
 国道463号（建武橋）



# 市街地の強靱化のための無電柱化スピードアップ

【予算額】3,835,235千円

担当 道路環境課 交通事故緊急対策担当  
道路街路課 街路担当  
交通安全施設整備担当  
内線 5098、5056、5086

## 目的

大地震や台風等の災害時に電柱倒壊や断線等により道路が閉塞することで想定される避難や救急活動への支障、停電や通信障害のリスクの軽減を図るため、無電柱化を推進する。

## 事業概要

1 『第2次埼玉県無電柱化推進計画(令和4年7月策定)』に基づく無電柱化事業の推進 3,835,235千円

(1) 『脱・電柱社会』の実現に向けた無電柱化事業の推進 3,835,235千円

防災性の向上の観点から、災害時の緊急車両等の通行空間を確保する緊急輸送道路において、無電柱化を推進する。また、無電柱化により、安全で円滑な交通の確保や、景観形成及び観光振興の観点から高い効果が期待される道路についても整備を推進する。

〔実施箇所〕

川口上尾線など36路線37箇所

〔大地震等の災害時写真〕



能登半島地震による被害



突風による電柱倒壊  
(越谷市)

〔無電柱化の整備箇所写真〕



無電柱化の整備箇所  
(都) 中央通線 (秩父市)



無電柱化の整備箇所  
(都) 駅前東通線 (東松山市)

新規

担当 道路環境課 防災担当  
内線 5107

### 目的

迂回路の無い県道において道路の法面对策や落石防護等を推進し、災害発生時の孤立集落発生を防止する。

### 事業概要

#### 1 ハード対策事業及びソフト対策事業 364,000千円

##### (1) ハード対策事業 (新規) 324,000千円

災害時の孤立集落発生を防止するため、点検等で判明した法面崩壊等のおそれがある箇所の対策を実施する。

- ・ 対策内容  
落石防護、道路法面对策など
- ・ 対策箇所  
両神小鹿野線など27箇所

##### (2) ソフト対策事業 (新規) 40,000千円

災害時の孤立集落発生を防止するため、点検等で判明した経過観察の必要な道路法面等の変位観測を実施する。

- ・ 対策内容  
変位観測の情報を基にした関係者間の連絡体制や  
応急対策体制の構築

#### ◆変位観測イメージ



異常検知

自動通知

県・関係機関等

応急対策等

- ・ 日常的に変位状況を確認可
- ・ 異常発生を自動で通知

- ・ 災害時協定業者等との連携により現場対応

道路法面等に変位観測装置を設置

#### 被災事例



国道140号 (秩父市)

#### 対策例 熊谷小川秩父線 (東秩父村)



対策前



対策後

新規

担当 道路環境課 道路環境担当  
内線 5103

目的

道の駅が平常時、災害時ともに地域拠点となることを目指し、埼玉県が管理する「県一体型道の駅」8駅を対象に「防災拠点」、「誰もが利用しやすい拠点」の視点から、必要となる機能要件、具体的な対策を検討し、リニューアル計画を策定する。

事業概要

1 道の駅のリニューアル計画策定 35,000千円

(1) 老朽化施設の健全度調査・更新検討 (新規) 20,000千円

県が管理する8駅について、建物や電気機械設備等の健全度調査を実施し、老朽化した施設の更新を検討



駐車場舗装の損傷



軒天の剥がれ

(2) 防災機能強化の検討 (新規) 5,000千円

国の能登半島地震への対応の振り返りや、県の取組の方向性を踏まえ、広域的な防災拠点としての2つの役割から道の駅それぞれに必要な機能を検討

- ・ 消防・警察等の活動拠点
- ・ 資機材の中継拠点

※検討例：既往事例や周辺施設の調査、  
駐車場におけるトレーラー等の通行軌跡調査、  
駐車場レイアウト再設計等

(3) リニューアル計画の策定 (新規) 10,000千円

- ・ 「防災機能強化」及び「誰もが利用しやすい」の視点から整備内容を国や市町村等関係機関と協議・検討
- ・ 上記の検討結果を反映した8駅全体の道の駅リニューアル計画を策定  
※各道の駅の基本設計を含む



広域的な活動拠点 (イメージ)

出典：国交省資料

担当 道路街路課 交通安全施設整備担当  
 道路環境課 交通事故緊急対策担当  
 内線 5097、5098

目的

埼玉県における令和6年の交通事故死者数は113人(全国ワースト5位)を数え、依然として高い状況にある。  
 交通事故死者数のうち歩行者の占める割合が約4割と最も高く、歩行者に対する交通安全対策が喫緊の課題となっていることから、歩行者と自動車を分離する歩道整備を進める。  
 また、自転車事故死者数については、埼玉県では全体の約2割を占めており、例年全国ワースト上位に位置しているため、安全で快適な自転車通行空間の整備を推進する。

事業概要

1 暮らしの安全安心を支える歩道や自転車通行空間の整備 3,258,600千円

(1) 暮らしの安全安心を支える歩道整備の推進 3,107,600千円

児童を中心とした歩行者の安全を確保するため、通学路及び未就学児の移動経路を優先して、歩道整備を進める。  
 (実施箇所：ときがわ坂戸線など96箇所)

(2) 安全で快適な自転車通行空間の創出 151,000千円

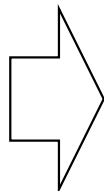
第2次埼玉県自転車活用推進計画に基づき安全で快適な自転車通行空間を創出する。  
 (実施箇所：練馬川口線など8箇所)

○ 整備例

・ 歩道整備 (笠幡狭山線：狭山市)



整備前



整備後

・ 自転車通行空間整備 (所沢狭山線：狭山市)



整備前



整備後

担当 道路街路課 交通安全施設整備担当  
内線 5097

## 目的

埼玉県内の交通事故の約6割が交差点及びその付近で発生しており、右折帯のない交差点では交通渋滞が発生している。交差点整備を実施した箇所では、交通事故件数が約3割、最大渋滞長が約6割減少するという効果が得られている。引き続き、交通事故の減少や交通渋滞の緩和を図るため、交差点整備を進める。

## 事業概要

### 1 円滑な交通と安全を確保する交差点整備の推進 695,000千円

#### (1) 円滑な交通と安全を確保する交差点整備の推進 695,000千円

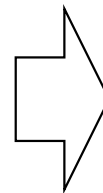
交通事故が多く発生している交差点や最大渋滞長100m以上、最大通過時間2分以上の交差点などから整備箇所を選定し、右折帯や右折避譲帯などの交差点整備を推進する。

(実施箇所：国道140号など32箇所)

#### ○ 整備例 交差点整備（保谷志木線：朝霞市）



整備前



整備後

担当 道路環境課 補修担当  
内線 5105

目的

道路は、県民の生活を支える重要かつ身近なインフラであることから、適切な維持管理を行い、道路利用者や周辺住民の安全・安心を確保する。

事業概要

1 道路交通の安全確保、道路利用者及び沿道移住者の生活環境の保全

15,314,069千円

(1) 舗装の維持管理 10,784,800千円

安全で円滑な交通を確保するため、ひび割れ率など舗装の健全度を考慮した計画的な修繕と、突発的に発生した穴等の応急的な補修を効率的に組み合わせて実施する。

また、舗装の長寿命化を踏まえ、舗装表面だけでなく路盤等も含めた修繕も実施する。

(舗装指定修繕実施箇所：深谷寄居線など219箇所)



舗装の修繕



(2) その他の道路の維持管理 4,486,369千円

雑草の刈払いや街路樹の剪定、交通の支障物の除去を実施し、安全・安心で快適な道路空間を確保する。また、道路の通行環境を改善するため、雑草繁茂箇所に対し、防草対策を実施する。

そのほか、側溝新設や清掃などの道路冠水対策や降雪時の除雪を行い、災害時における道路交通機能の確保にも努める。

(防草対策実施箇所：国道254号など39箇所)



道路の防草対策



(3) 地中レーダーを用いた路面下空洞調査 42,900千円

道路パトロールによる日常的な道路の巡視に加えて、地中レーダーを用いて、路面陥没につながる路面下の空洞の発見や修繕を実施する。

(路面下空洞調査実施箇所：国道140号など3路線)



道路の陥没事例



路面下空洞調査の状況

# インフラ管理におけるDXの推進

【予算額】464,751千円

## 一部新規

担当	県土整備政策課	建設DX推進担当	内線	5199	河川環境課	総務・管理担当	内線	5133
	道路環境課	補修担当	内線	5105		河川維持担当	内線	5114
		道路環境担当	内線	5103				

## 目的

公共インフラの品質確保、機能維持のため、デジタル技術を活用し、シームレスな建設生産プロセスへの変革を目指す。

## 事業概要

### 1 インフラ日常管理DXの推進 24,000千円

- (1) インフラ日常管理DXの推進（道路） **新規** 14,640千円
- (2) インフラ日常管理DXの推進（河川） **新規** 9,360千円

インフラ日常管理（道路、河川）の「情報の一元管理」「迅速な情報連携」「情報の見える化」を図るため、道路・河川管理を支援するアプリを導入する。

- 事業効果**
- アプリ使用による業務改善
    - ・書類作成時間の削減・データ集計事務の効率化・パトロール時間の増加
  - 情報連携による県民サービスの向上
    - ・現場対応のスピードアップ・蓄積データの分析による予防的措置

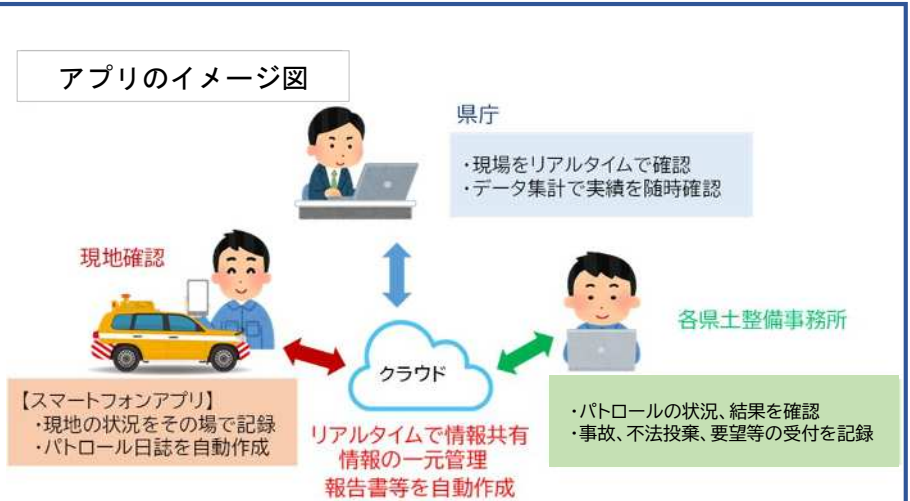
### 2 i-Constructionの推進 340,000千円

- (1) 3次元点群測量（道路） 100,000千円
- (2) 3次元点群測量（河川） 240,000千円

県管理道路における道路構造物（橋梁等）や高築堤河川等の重要度の高い河川の3次元点群データを取得し、設計業務や維持管理等に活用する。

### 3 インフラ建設管理におけるDXの推進 100,751千円

- (1) GISインフラデータ活用基盤運用・保守等 100,751千円
- GISインフラデータ活用基盤の運用および電子納品保管管理システム保守・運用等を行う。



# 河川・砂防施設の管理徹底、強化

【予算額】18,747,630千円(一部再掲)

一部新規

担当 河川環境課 河川維持担当 ダム管理担当 河川設備担当  
河川砂防課 荒川上流域・砂防担当  
内線 5114、5116、5141

## 目的

出水時に河川管理施設としての機能を発揮するために、異常・損傷状況の把握と迅速な対応が必要であり、頻発化・激甚化する災害から県民の安心・安全を守るため、河川管理施設等の計画的な維持管理を進める。  
また、排水機場・ダム・砂防関係施設においても長寿命化計画に基づく適切な機能維持などを図る。

## 事業概要

### 1 河川・砂防施設の管理徹底、強化 18,747,630千円

#### (1) 適正な維持管理 6,604,917千円

緊急浚渫推進事業が5か年延長されることを受け、引き続き河道等において堆積土砂の撤去等を実施することで、適切な機能を回復させる。  
また、雑草刈払い後に点検を行い、堤防等の異常を発見し、弱体化を防止することで、河川管理施設としての機能を正常に保つ。



#### (2) 長寿命化計画に基づく河川管理施設等の更新等 7,084,766千円

排水機場・ダム・砂防関係施設の更新・修繕を実施する。  
また、耐震性を確保するために排水機場の耐震化を推進する。



#### (3) インフラ日常管理のDX推進(河川) (新規) 9,360千円

インフラ日常管理(河川)の「情報の一元管理」「迅速な情報連携」「情報の見える化」を図るため、河川管理を支援するアプリを導入する。



#### (4) 河川管理施設の修繕・更新 5,048,587千円

河川管理施設の損傷個所の修繕や更新を行い、河川管理施設の本来の機能を取り戻す。



※(2)(4)は緊急自然災害防止対策事業債を活用し、重点的に実施



担当 道路街路課 国道担当、県道担当、街路担当  
内線 5074

目的

直轄国道等を軸として繋がる道路を整備することで骨太の幹線道路網を形成し、企業立地の促進など地域経済の活性化のほか、災害発生時における輸送路のリダンダンシー確保による県土の強靱化を図る。

事業概要

1 直轄事業と連携した骨太の道づくり 5,327,642千円

(1) 直轄国道の整備と連携した県管理道路の整備推進 5,327,642千円

現在事業中の直轄国道に繋がる県管理道路や地域高規格道路(県施行)の整備を13路線16箇所で行う。



No	路線名	市町村	工区名
①	国道140号	秩父市	大滝トンネル 長尾根BP
②	国道254号	朝霞市、志木市 和光市	和光富士見BP 和光BP
③	さいたま鴻巣線	北本市	高尾
④	川越越生線	鶴ヶ島市	新川越越生
⑤	東松山鴻巣線	吉見町	久保田
⑥	上里鬼石線	上里町	神保原
⑦	本庄寄居線	本庄市	本町
⑧	越谷野田線	松伏町 松伏町	松伏西 田島
⑨	柿木町蒲生線	草加市・越谷市	
⑩	越谷流山線	三郷市、吉川市	半田
⑪	(都)浦和野田線	越谷市	元荒川
⑫	(都)三郷流山線	三郷市、吉川市	彦糸
⑬	蓮田白岡久喜線	蓮田市	蓮田SIC



整備状況  
⑧越谷野田線(松伏町・田島)

担当 道路街路課 国道担当、県道担当  
内線 5074

## 目的

本県の交通の要衝としての魅力をさらに高めるため、産業拠点へのアクセス道路の整備を重点的に行い、円滑な交通を確保し、周辺の渋滞緩和や地域の振興を図る。

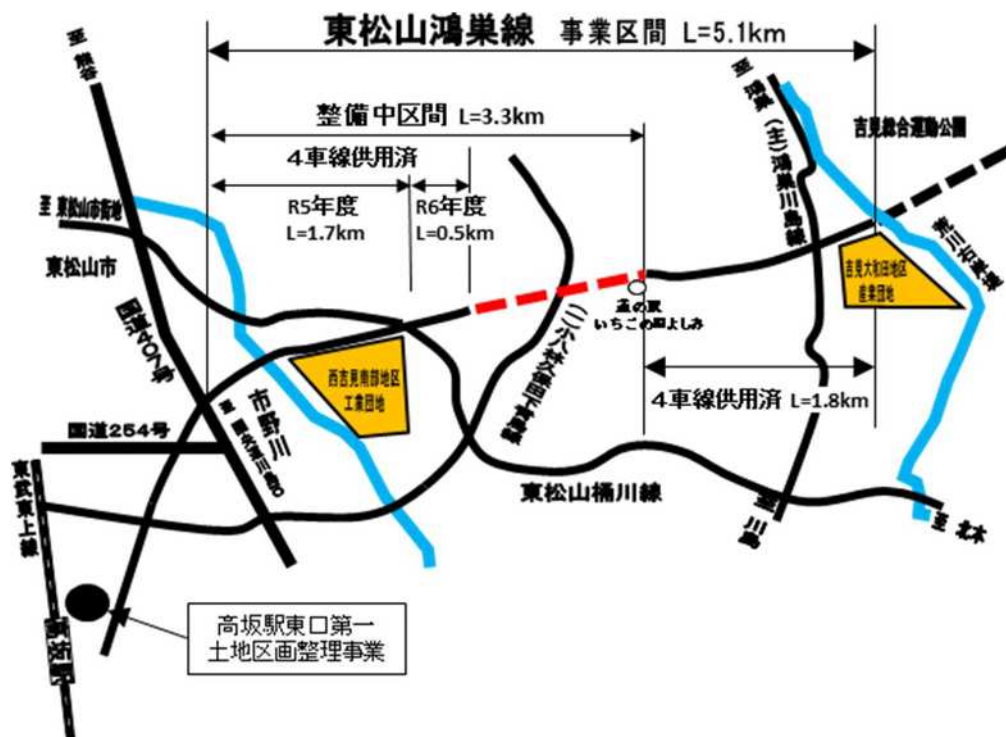
## 事業概要

### 1 産業拠点を支えるインフラ整備 1,443,500千円

#### (1) 産業拠点へのアクセス道路の整備 1,443,500千円

新たな産業団地の造成が予定されている箇所や既存の産業団地などへのアクセス道路整備を8路線8箇所を実施する。

○実施箇所例（東松山鴻巣線）



○事業実施箇所

No	路線	市町村	工区
①	東松山鴻巣線	吉見町	久保田
②	国道407号	鶴ヶ島市	鶴ヶ島日高BP
③	青山熊谷線	東松山市、熊谷市	岡・中曽根
④	熊谷羽生線	熊谷市	上之
⑤	深谷嵐山線	深谷市	上原
⑥	花園本庄線	深谷市	武蔵野
⑦	越谷野田線	松伏町	田島
⑧	行田蓮田線	蓮田市	下栢間



現道の渋滞状況  
東松山鴻巣線（吉見町内）



整備状況  
東松山鴻巣線（吉見町内）

担当 道路街路課 街路担当  
内線 5056

### 目的

春日部駅付近は、ピーク時1時間当たり40分以上遮断しているいわゆる「開かずの踏切」を含む複数の踏切が集中しており、交通渋滞や踏切事故、中心市街地の分断などの問題が生じている。

このような状況を解消するため、鉄道を高架化し、複数の踏切を除却することにより、走行時間の短縮や交通安全の確保はもとより、地域の賑わいの創出や沿線の利便性の向上などの効果発現を目指す。

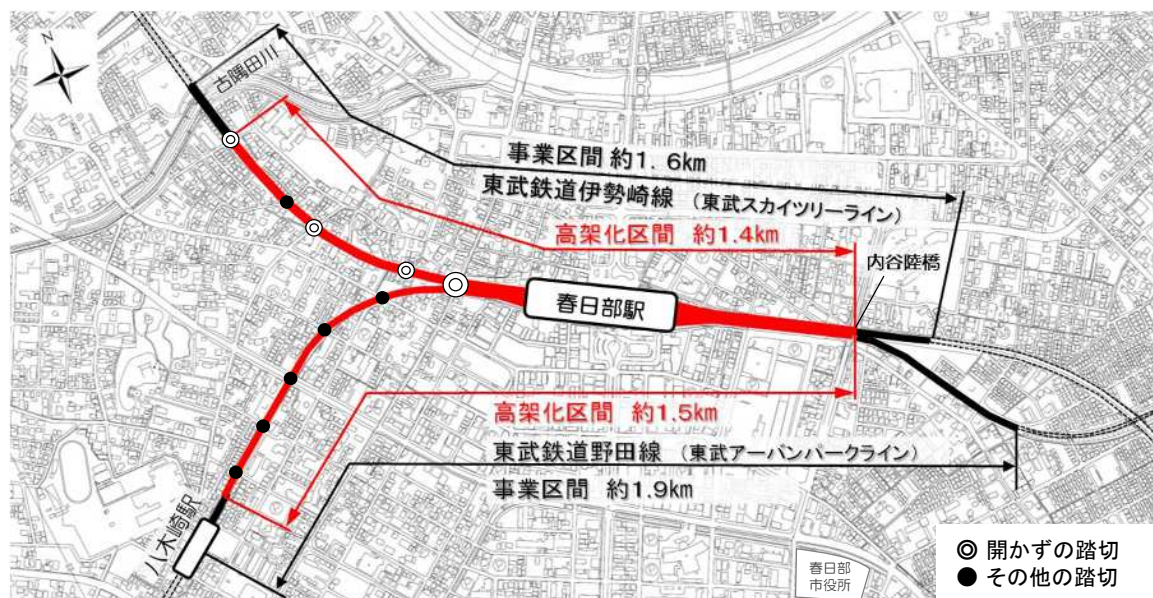
### 事業概要

#### 1 鉄道高架で踏切ゼロ！の推進 2,783,587千円

##### (1) 連続立体交差事業費 2,783,587千円

東武鉄道伊勢崎線・野田線の春日部駅付近を高架化することにより、10箇所の踏切を除却する。

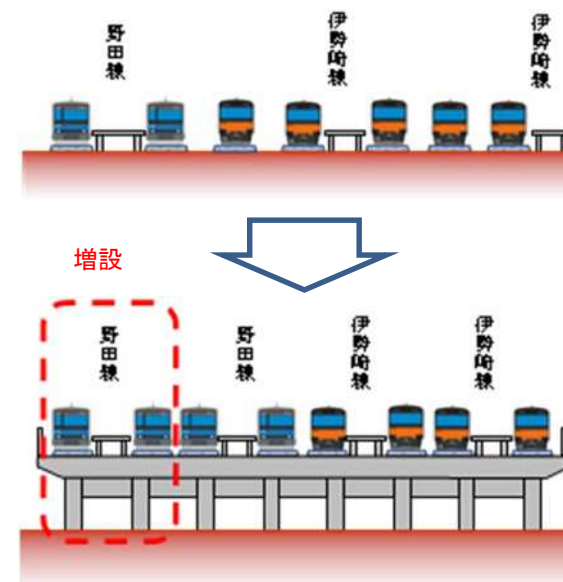
さらに、春日部市による駅周辺のまちづくりや鉄道事業者による鉄道機能の増強等を併せて行い、事業効果を最大限に発揮する。



春日部駅東口仮駅舎



伊勢崎線仮上り線



新規

担当 道路環境課 道路環境担当  
内線 5103

## 目的

サイクルツーリズムの推進により、県内地域経済の持続的な活性化に繋がるよう、地元や国、自治体、関係機関と連携、協力しながら、自転車で特有の道路環境を走ることを楽しんだり、地域独自の資源や魅力を楽しむことができるような施策を展開する。

## 事業概要

### 1 走行環境整備 60,500千円

#### (1) ルート上の案内等の整備 (新規) 60,500千円

サイクリストを安全、適切かつ効率的に案内するための案内表示等を整備する。

- ・各道路管理者（国、県、市町村）統一のデザインによる表示（矢羽根、ピクトグラム、案内看板）

○他県の整備例



○整備後のイメージ

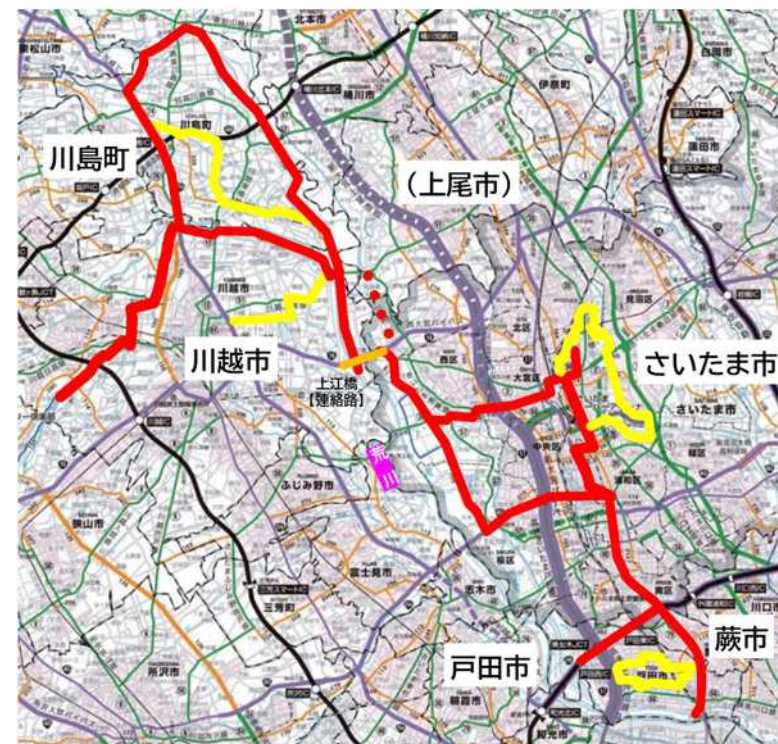


©栃木県

- ・国土交通省のサイクルツーリズム推進モデルルート※に登録予定の2ルート（令和7年4月～）を対象に整備
  - ①荒川リバーサイドCityルート（さいたま市、川越市、蕨市、戸田市、川島町）
  - ②秩父札所・長瀬ルート（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町）

※国土交通省サイクルツーリズム推進モデルルート

[https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/model\\_route/](https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/model_route/)



凡例 赤実線：基幹ルート 黄実線：地域ルート

「荒川リバーサイドCityルート」の例

担当 河川環境課 河川環境担当  
内線 5112

目的

埼玉版SDGsの重点テーマの一つである「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」では、豊かな自然と共生しながら持続的に発展する埼玉の実現を目指している。「魅力的な水辺空間の保全・創出と良好な水環境の保全」の視点から、多様な主体と連携しながら河川空間の利活用を推進する「Next川の再生」に取り組む。

また埼玉版スーパーシティプロジェクトにおける市町村の地域まちづくり計画を踏まえ、市町村事業と連携した県事業の整備を進める。

事業概要

Next川の再生の推進

1,141,100千円

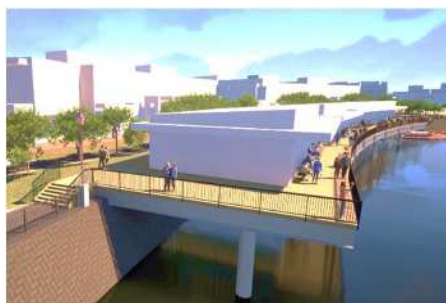
(1) 民間事業者等と連携した水辺空間の利活用

915,000千円

- ・ 河川空間の利活用について、企画段階から民間事業者等と連携を強化し、より魅力ある水辺空間を創出
- ・ 元荒川／越谷市など12箇所事業を実施



元荒川・大相模調節池（越谷市）



利用調整協議会

(2) 自然や生物、景観に配慮した河川整備

130,000千円

- ・ 護岸等の修繕に合わせて、生物の生息に配慮した水際を整備し、地域に親しまれる水辺空間へ
- ・ 越戸川/和光市など4箇所魚道整備・洗堀対策等を実施



越戸川（和光市）洗堀対策

(3) 地域活動と連携した河川の浚渫等

96,100千円

- ・ 積極的な美化清掃活動などと連携して、水の濁りや悪臭の原因となっている土砂等を撤去
- ・ 元荒川/越谷市など4箇所土砂撤去等を実施

# 埼玉版スーパー・シティプロジェクト 市町村と連携して実施する事業【予算額】1,033,000千円(再掲)

担当 道路街路課 街路担当  
道路環境課 交通事故緊急対策担当  
河川環境課 河川環境担当  
内線 5056、5098、5112

## 目的

埼玉版スーパー・シティプロジェクト市町村事業と連携して県事業を実施し、市町村のまちづくりを支援、加速化する。

## 事業概要

### 1 スーパー・シティまちづくり支援 県道整備 753,000千円

#### (1) ウォーカブルなまちづくりを支援する県道整備 164,000千円

- ・【県事業】無電柱化・美装化 + 【市町村事業】駅前拠点施設等の整備、再開発などにより、居心地の良いウォーカブルなまちづくりを進め、中心市街地の賑わいを創出する。
- ・朝霞市、所沢市、本庄市、寄居町の3市1町で実施。



県道の整備後(イメージ)

#### (2) 中心拠点基盤整備を支援する県道整備 589,000千円

- ・【県事業】県道(都市計画道路)の拡幅・無電柱化 + 【市町村事業】中心拠点施設整備などにより、駅前や中心拠点施設、駅前通りを中心とした商店街の活性化、コンパクトな市街地づくりを推進する。
- ・志木市、桶川市、杉戸町の2市1町で実施。



桶川駅前のまちづくり整備(イメージ)

### 2 スーパー・シティまちづくり支援 水辺deベンチャーチャレンジ 280,000千円

#### (1) 水辺deベンチャーチャレンジの推進 280,000千円

- ・【県事業】県管理河川の水辺整備 + 【市町村事業】観光拠点整備  
企画段階から民間事業者等と連携して河川管理施設を整備し、河川敷地の商業利用による地域活性化を推進する。
- ・所沢市、日高市、小川町、横瀬町の2市2町で実施。



小川町 水辺整備(イメージ)